

講習の名称：学校経営における組織的対応と危機管理

担当講師：矢島 正（大学院教育学研究科教授）、高橋 望（大学院教育学研究科准教授）

講習開講日：平成 29 年 8 月 19 日（土）

時間数：6 時間

主な受講対象者：選択必修講習受講者の内、本内容を選択した者

キーワード：学校教育を取り巻く諸問題 学校組織運営 チーム学校 危機管理

講習の概要：

中央教育審議会初等中等教育部会「チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会」は平成 27 年 7 月に「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（中間まとめ）」を公表しました。そこでは、社会の変化と学校を取り巻く状況の変化をもとに、現状の教職員の多忙化を踏まえ、教育の多様性に応じる専門的スタッフの増強とチーム体制の構築、学校のマネジメント機能の強化、教員一人一人が力を発揮できる環境整備などを挙げ、これからの「学校」のあり方について「組織」面からの見直しや改善の必要性を述べています。

しかし、現状の「学校」の抱える諸問題の多様さや、教職員の職務の煩雑化、学校外からの「学校」への要求の拡大化を考えると、この問題の改善はそれほど容易なことではないように思われます。では、どのような点に着目して、どこから手をつければいいのか、現場の実態やこれまでの取組の成果や課題について具体的に論じていきます。

また、学校における危機管理について、学校組織としてどのような点に留意すべきなのか、どのような体制が求められるのか、受講者とともに検討していきます。

講習の展開：

第 1 時限 学校組織と危機管理

第 2 時限 学校危機管理の具体的事例

第 3 時限 「学校内の組織体制」をどう整備したらよいか

第 4 時限 「学校外の教育資本」をどう活用して組織力を高めるか

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：

特に、専門的な領域に関しての知識は必要としません。

可能であれば、文部科学省HPや新聞・教育関係雑誌等で「チーム学校」「開かれた学校づくり」「学校の組織体制の再編整備」等をキーワードに、現在の学校を取り巻く動向についてご自分なりの理解や考えをお持ちいただくと理解が深まるかと思えます。

受講者の勤務先状況等が多様になりますので、講義にあたってはできるだけ多様な校種や現場の状況を踏まえて具体的に解説します。

また、ご自身の学校等における危機管理体制の現況、実際の取り組みについて、ご自分なりの見解をお持ちいただけるとよいと思えます。

授業の形式： 講義 演習

履修認定試験： 論述形式の筆記試験を課します（ノート・配布資料の持込可）。